

## 第3学年 外国語活動実践報告

報告者 牛尾 美穂

【キーワード】 既習・新出の言語材料への慣れ親しみ 文字の識別 相手に配慮したやり取り
---

1 単元名 アルファベットとなかよし

2 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き, 活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむこと。	自分の姓名の頭文字を伝え合うこと。	相手に伝わるように工夫しながら, 自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

3 単元の構想

本単元は、アルファベットの文字を題材とする初めての単元であり、大文字とその読み方に慣れ親しむことが目標となる。また、高学年の文字学習へのスタートとなる重要な意味をもつ単元であり、高学年の外国語科の目標(2)「読むこと」ア「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにすること」につながるものである。アルファベットは、服や広告など児童の身近な生活の中にたくさん存在している。本学級の児童は校内や地域にあるアルファベットの文字が使われた様々な標示を普段の生活の中で発見している。国語科のローマ字学習ではアルファベットの大文字と小文字に触れている。さらに、パソコンを使ったローマ字入力の練習をする中でもキーボード上のアルファベットを何度も目にしている。本単元では、日常生活の中に溢れるアルファベットの大文字を言語材料として取り上げ、児童がアルファベットの大文字の形や音声に慣れ親しむとともに、身の回りにはアルファベットの大文字がたくさん使われていることに気付くようにする。しかし、文字認識に関しては個人差が大きいことが予想されるので、児童が文字に親しみ、興味・関心が高まるよう、段階的に多様な活動を経験させたい。そこで本単元では、『Let's Try! 1 Unit 6 アルファベットとなかよし』の活動を基に、児童の興味・関心を惹き、どの児童にとっても楽しく文字に親しむことができるようにするため、児童が普段目にしているアルファベットを導入で使ったり、学校の中でアルファベット探しをしたりするなど活動をアレンジする。友達と一緒にアルファベットの形を見たり、音声を聞いたり、触ったり、真似て言ったり、体全体を使って表現したりする活動を楽しむ中で、文字の読み方の発音を聞いて、それが表す文字が分かるようにするという段階までを扱う。自分を紹介するミニポスターを作って紹介するという単元のゴールを設定し、単元の終末には、新出の言語材料であるアルファベットと既習の言語材料“What ~do you like?” “I like~.”を用いたコミュニケーション活動を行う。実際のコミュニケーション場面において言語材料を活用し、相手に配慮しながらコミュニケーションを図る中で、身近な友達のことを聞いて新しい発見をし、他者への気付きをもつ楽しさを感じることができるようになる。

4 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

活字体の大文字を識別し、その読み方に慣れ親しみ、自分の姓名の頭文字を伝えることができるようになる。

(2) 単元の評価規準

ア 身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しんでいる。 【知識・技能】

イ 自分の姓名の頭文字を伝え合っている。 【思考・判断・表現】

ウ 相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の計画 (全4時間)

- ・身の回りにはアルファベットの文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字の読み方を知る (1時間)

- ・活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ（2時間）
- ・相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする（1時間）

## 6 本時の指導（4／4）

### (1) 目標

相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えることができるようにする。

### (2) 評価規準

イ 自分の姓名の頭文字を伝え合っている。

【思考・判断・表現】

ウ 相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

### (3) 展開

学習活動と児童の反応（ [ ] ）	形態	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 前時の活動を振り返り、本時のめあてを知る。（5分） ・町の中にたくさんアルファベットがあった。 ・いろいろなアルファベットゲームをしたよ。 ・似ているアルファベットがあったよ。	斉	1 本時の活動に自信をもって取り組めるようにするため、これまでにアルファベットとその読み方に慣れ親しんできたことや振り返りカードの記述から取り上げた文字への気付きについて確認する。
ミニポスターを完成させ、イニシャルや好きなものを伝え合おう		
2 アルファベットソングを歌う。（5分） ・順番が換わると、歌うのが難しいな。 ・歌の途中、2回立ち上がったよ。	斉	2 様々なバリエーションで歌うことで、児童がアルファベットの大文字を識別し、その読み方に慣れ親しむことができるようにする。
3 イニシャルや好きなものを伝え合う。 (1) イニシャルを伝え合う。（10分） 隣の席の友達とイニシャルを伝え合い、互いにイニシャルカードを手渡す。 A: Hello. My name is ○○. ○card and ○card, please. B: O.K. (Aのイニシャルのカードを取りに行く。) Here you are. A: Thank you.	ペ	3-(1) 相手意識をもってやり取りができるように、イニシャルを伝え合い、互いに相手のイニシャルのアルファベットを手渡す活動をする。 3-(1) 相手に配慮しながらコミュニケーションを図る態度を育てるため、相手に分かりやすく伝えるために工夫している児童を紹介する。
(2) 好きなものを伝え合う。（10分） A: Hello. What animal do you like? B: I like dogs. A: (「犬」のカードを手渡す。) Here you are. A: Thank you. B: You're welcome. A: See you. B: See you.	ペ グ	◆ 自分の姓名の頭文字を伝え合っているか。 (行動観察・発言)【思考・判断・表現】 A 自分の姓名の頭文字を伝えたり、相手の姓名の頭文字を識別して手渡したりすることができる。 B 自分の姓名の頭文字を伝えることができる。 →相手の姓名の頭文字の読み方を確かめ、文字と一致させる。 C 自分の姓名の頭文字を伝えることができない。 →ペアの友達と一緒に、自分の姓名の頭文字を考えるよう促す。
4 ミニポスターを使ってイニシャルと好きなものを紹介する。（10分）	グ	4 オリジナリティを出して自分のことを表現できるように、ミニポスターを見せながら既習表現を用いて話す活動をする。
5 本時の活動を振り返る。（5分）	斉	5 伝え合う活動を通じて友達について新しく知ったことや分かりやすく伝えるための工夫について取り上げ、価値付ける。

## 7 「学びの姿をみるシート」の結果

A : よく見られた (4) B : 見られた (3) C : あまり見られなかった (2) D : 見られなかった (1)

### I 主体的な学びであったか

	項 目	A	B	C	D	平均	授業者
1	児童が、自分事として学んでいたか。	24	0	0	0	4	4
2	児童が活動に意味を見だし、自ら進んで取り組んでいたか。	21	3	0	0	3.88	3
3	ミニポスターを作るために友達と楽しくやり取りしていたか。	23	1	0	0	3.96	4
コ メ ン ト							
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見を積極的に述べながら、学習に取り組んでいた。自分から質問したり、リアクションをとったりする姿が見られた。</li> <li>楽しそうな様子が伝わってきました。既習の英語表現を使って積極的に発言できていました！！</li> <li>先生が教室英語を積極的に使われていたので、児童たちの活動もとても積極的だったと思います。また、活動の途中でよいやり取りの例を紹介されていましたが、その紹介の後、より活発に活動していたと思いました。</li> <li>自分のイニシャルや好きなものを伝えたり、相手のものを“What (名詞) do you like?”と尋ねたりを主体的に行えていた。いい例を見た後、積極的にその例を反映させて伝え方を工夫していた。</li> <li>めあてへの注目度が高く見られたため、活動の目的を分かって活動ができていると思った。また、活動中の児童には笑顔がたくさん見られたことに加え、既習の英語表現を積極的に使ったコミュニケーションができていた。</li> <li>カードの中に自分が描いた絵があり、それを見つけて「あっ！私が描いたのがある！」とうれしそうにカードを取っていた。 子どもたちが楽しめる工夫がちりばめられていました。</li> <li>素敵なポスターを作ろう！という意欲をもって、子どもたちは活動できていた。ゴールが適切に設定されていたからだと思います。</li> </ul>							

### II 対話的な学びであったか

1	問題の解決に向けて、児童同士の必然性のある対話が見られたか。	21	3	0	0	3.88	4
2	問題の解決に向けて、児童に学習対象 (内容) との対話が見られたか。	18	5	1	0	3.71	3
3	相手に伝わるよう工夫しながら表現したり、相手に反応しながら聞いたりしていたか。	19	5	0	0	3.79	4
コ メ ン ト							
<ul style="list-style-type: none"> <li>よいやり取りをしていた児童を全体でほめ、紹介していたのがよかったです。</li> <li>ペア活動とグループ活動を取り入れて、話し相手や話す雰囲気をかえる工夫は児童の気持ちを高めるにもよい方法だと思いました。よい対話を皆に知らせるのは素晴らしいと思いました。</li> <li>児童同士で迷っている児童に対して、“Ice cream?” “Apple?”などと尋ねている姿が見受けられた。会話が続くように、両者が工夫してコミュニケーションをとっていた。</li> <li>ただ与えられた英語表現を使うだけでなく、“Thank you.”と言ったり、相手の発言に反応したりするなど、良いやり取りだったと思います。また、前単元の“What ~ do you like?”も合わせながら使われていたので、児童が英語表現に触れる場面が多く設けられていたのでとてもよかったです。</li> <li>よい例は取り入れ、より良い・深い対話にしようとしていた。相づちも大切にしていた。きちんと相手の答えを待って活動できていた。</li> <li>自作 (子どもが描いた) 絵もあり、あたたかみを感じたが、同じものを描いた絵でも絵の内容で選んでいた子が見られた。</li> <li>ポスター作りという明確なゴールがあったため、カードを得る必要があり、必然性のある対話ができている。“OK.” “Thank you.” “Me, too.”など適切に英語表現を用いて相手に反応しながら対話していた。</li> <li>相手にポスターを向けて、指をさしながら相手の表情を見て、ゆっくり自分のイニシャルと好き</li> </ul>							

なものを伝えていた。

- ・ どの絵を選ぶか、ワクワクしながら活動していた。事前に手書きの絵まで準備されていたので、なるべく児童手作りのものを使って身近に感じさせようという意図が感じられました。

### Ⅲ 深い学びであったか

	項 目	A	B	C	D	平均	授業者
1	身に付けさせたい資質・能力を，児童が身に付けられていたか。	23	1	0	0	3.96	4
2	児童が，問題に対して，自分の考えや新たな疑問をもつことができていたか。	12	10	1	0	3.48	3
3	イニシャルや好きなものを伝え合うことにより，友達への理解を深めていたか。	18	6	0	0	3.75	3
コ メ ン ト							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話を型にはめるのではなく、ゆるやかに流れを教えて、あとは児童に任せるのが本物の会話になっているのだと感じました。最後の一斉活動でその児童への理解も深まるなあと感じました。</li> <li>・好きなものを尋ねたり、伝えたりすることによって児童が互いに理解しようとしていた。</li> <li>・ただ伝えるだけでなく「気持ちのよいやりとり」となるよう児童が工夫していた。表情、身振りなどで豊かに表現し伝えようとしていた。</li> <li>・ペアだけでなく席を移動していろんな人とやり取りをする時間が欲しかった。新たな疑問をもった児童を見つけることができなかった。</li> <li>・友だちが作ったポスターカードでイニシャルから誰を指しているのか予想し、考え、“Do you like~?”を用いて、友達の好きなものは何か尋ねたりするなど、相手意識がしっかりできており、また、友達の理解もできるよい活動だと思いました。</li> <li>・皆ミニポスターを完成させ、友人と紹介し合うことができていた。同じものが好きな人には“Me, too.”など共感の表現も見られた。</li> <li>・何と尋ねるか児童から言ったりして、単元を通した学びの成果が見られた。</li> <li>・学習事項以外にも相づちや確認する時の教室英語も注目して、伝え合いにより深い学びがなされていた。(話がとぎれとぎれにならないように)</li> <li>・友だちの新しい部分を知ることができたと振り返りにも書いており、深い学びが達成されていた。</li> <li>・振り返りの場面で同じイニシャルの子を出して、友達のことを知ろうとしたり、知っていることを伝えたりすることができる工夫がされていたと思う。</li> <li>・先生の優しい英語の言い方やジェスチャーを付けながら伝えること、繰り返して伝えることなど、私も自分のクラスでまねしたいと思いました。</li> <li>・最後の誰のかを問う時間がよかったですね。友だちのことを想って、やりとりができてましたね!</li> </ul>							
平均						3.82	3.56
自 由 記 述							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語の学び方について、とても勉強になりました。言語の習得だけでなく「きもちのよいやりとり」とコミュニケーションに関わる大切な部分を取り上げられていたのに感銘を受けました。</li> <li>・ 児童にデモンストレーションをしてもらったり、または褒めたりしながら、児童の授業に対する意欲を上手に活用していた。</li> <li>・ 子どもたちが友達のことを知ろうと積極的に活動に取り組むことができていた。</li> <li>・ 児童が活動する場において、何か良い例を示すことはとても重要なことだと思いました。例をしっかりと示し、児童に理解させることで、より活動の質の向上につながるのだと実感しました。</li> <li>・ 目標 (Today's goal)から振り返りまで、とてもなめらかな授業構成になっていた。(スムーズ)</li> <li>・ 児童が話すタイミングをいくつも設けることで私語もほとんどなかった。先生の表情が豊かで子どもたちも楽しめていた。</li> <li>・ 授業のテンポがとてもよく、全員が主体的に取り組めるような工夫が施されていたので、とてもすばらしい授業だと思った。</li> <li>・ ある女子生徒がカードを指しながら、“This?This?”と尋ねていて、良い環境をつくっていた。</li> <li>・ 児童に気付かせる、児童が楽しくコミュニケーションを行うというとても模範となる授業でした。</li> </ul>							

## 8 児童の振り返り

### (1) 主体的な学び

“What do you want?” と尋ねられる前に、自分から進んで「サッカーリーグ」と言ったり、悩んでいる友達にいくつかのカードを見せながら、聞いたりした様子が分かる。児童は、相手意識・目的意識をもって主体的に友達に関わっていった。児童が単元のゴールを意識できていたことが、主体的に活動に取り組むことにつながったと考える。児童の発達段階に応じて、児童が興味関心をもつことのできる題材を取り上げたり、ゴールを設定したりすることが重要であると感じた。

わたしが「サッカーリーグ」といってOK  
といってくれたのでうれし  
いです。

今日、ぼくがなやんでる時、「アイスクリーム？」  
と聞いてくれたのでうれしかったです。

### (2) 対話的な学び

自分が言いたいことは何か、どうすれば相手に自分の言いたいことが伝わるのか、対話を通して学んでいる。また、相手のことを想ってやり取りをしている。自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えるために指をさす等ジェスチャーを使った児童がいた。また、相手の伝えようとしてい

わは言葉が分からなかった時は、手をさして「OK」と聞  
いておぼた。そしてつづいて「OK」と言ってくれました。  
わはか分からないときに分かってくれるとうれし  
いで、多分おぼたのことが分かるようにしていいです。

仁シールのカードをおぼたとき、お  
ぼた聞いてたりしました。

しゆうたさんがせんきやバギーをいって来て  
て気持ちよくなりました。ひまりさんはわ  
たしのかしらものときちんとかくにんして  
からいってすごいなと思いました。

仁シールをもってくるときにOKとききました。  
ほかの気持ちのよいやりとりもしてみ  
ています。

うちのミニポスターを使ってしゆうたし  
ている時に「アイライクキョット」と言ったので「キ  
ョット」と言いました。ひまりさんもキョットが好  
きでしておぼたりました。

コミュニケーションのマナーとも言える挨拶やカ  
ードの受け渡しをするときの英語を使う児童も多  
く見られた。

### (3) 深い学び

作ったミニポスターを使って、外国語で自分のことを紹介する活動を通して、児童は友達への気付きをもつことができた。今までは知らなかった新たな一面や予想していなかった意外な一面を知り、そのことで友達と今までよりもっと仲良くなれたと感じる児童が見られた。コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした言語活動を設定することが大切である。

おぼたさんかアイスがすきなんで、おぼたもほしんで  
した。おぼたさんがすきかわいいなと思いました。

今日友だちに仁シールやすきなどのカードを  
友だちのことがよく矢口れて友だちとモッ  
たがよくなれたかなと思いました。

今日はポスターをふりました。  
おぼたさんはおぼたは、おぼたがすきかと思  
いきました。でもおぼたがすきかといっていたので、  
おぼたりました。わたしはポスターに、  
「アイスクリーム」や「パンダ」や「たまご」を  
はりました。おぼたのしゆうたです。

「サッカ-」すきな人が多いとおぼたりました。

## 9 授業の実際と考察

### (1) 実践の概要

本実践は、新出の言語材料であるアルファベットと既習の言語材料“What ~do you like?” “I like~.”を用いたコミュニケーション活動を通して自分を紹介するミニポスターを作り、それを紹介するという内容である。実際のコミュニケーション場面において言語材料を活用し、相手に配慮しながらコミュニケーションを図る中で、身近な友達のことを聞いて新しい発見をし、他者への気付きをもつ楽しさを感じる児童の姿を目指した。

### (2) 主体的な学びの場面

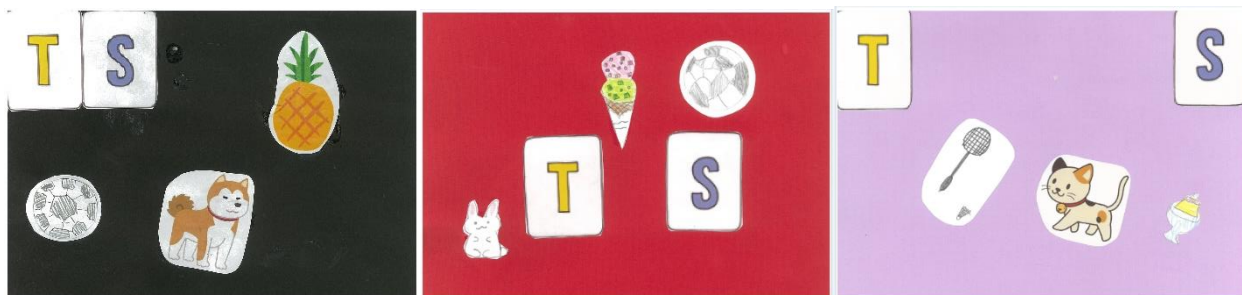
「自分を紹介するミニポスターを作って紹介する」という目的のため、必要なイニシャルカードや絵カードを集める活動をする。必要なカードを集めるために外国語を使ってやり取りするという必然性をもたせている。何のためにこの活動をするのかという、目的意識ややり取りの必然性が明確であったので、児童は自ら進んで相手に働きかけていた。決まったやり取りを繰り返すのではなく、どのカードにしようかと相手が困っていれば相手に合わせて言葉をかけていた。

### (3) 対話的な学びの場面

ポスター作りのため、カードを集める活動では、お店屋さんごっこという場を設定した。目的、場面に合わせて、相手意識をもってやり取りをすることができた。どの児童も対話を生み出すことができるよう、店を4つ作り、それぞれ店側と客側の児童が振り分けるようにした。対面式にしたことで話しやすかったようだ。場の設定は対話的な学びを生むのに有効な手立てであると感じた。やり取りの前には、目的達成のために必要な英語表現だけでなく、相手に自分の思いや考えを伝えるための工夫についてどんなことができそうか考える時間をとった。そして、いくつかの工夫を全体で共有した後、活動に取り組んだ。カードを集める場面においては、「挨拶をする」「確認する」などが児童から出された。グループでミニポスターを紹介し合う場面では、相手の好きなものを聞いた後、“Mee, too.”と反応を返す児童も見られ、気持ちのよいコミュニケーションを図ることができていた。

### (4) 深い学びの場面

グループでミニポスターを紹介し合う活動の後、全体での活動を取り入れた。クラスの中に同じイニシャルの児童が複数名在籍していることを使って、イニシャルからその児童を予想してみる活動を行った(図1)。イニシャルだけでは特定できないことから、既習の英語表現を使ってイニシャル以外の情報を確かめていった。友達のことを考えながらやり取りをすることができ、その友達への理解も深まったと考える。



同じイニシャルの児童が作ったミニポスター

### (5) 全体考察

単元の中で、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした言語活動、児童にとって必然性のある活動を効果的に設計することが、主体的・対話的で深い学びの実現につながると感じた。その言語活動において相手に伝えたい思いをこれまでに慣れ親しんだ英語の中から選び、分かりやすい伝え方を思考し、試行する。このサイクルを繰り返しながら、児童は自分の思いや考えを伝え合う力を身に付けていくのだと感じた。